

「学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成」
～第3学年 政治・経済「パレスティナ問題」における実践を通して～

鹿児島南高等学校
教 諭 池之上博秋

I 研究実践の目的

標題の「研究のねらい」は、「思考力・判断力・表現力の継続的な育成を目指し、学習内容の関連を踏まえた『判断基準』を設定することで、より効果的・効率的な指導と評価の在り方を明らかにする」ことである（「平成26年度調査研究について」教科教育研修課）。また、本年度の研究の概要の中で、「学習内容の関連」について「学習内容を関連させる観点を踏まえ、学習内容の関連を図る範疇を設定するとともに、その際の指導のポイントを明確にする」とし、既習単元の振り返りとの関連を図った本単元の見直しや、本単元の目標達成に向けた習得と活用、次単元の見通しとの関連を図った本単元の振り返りをポイントとして指導を工夫するよう求めている。さらに、学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定に基づく指導と評価の一体化を求めており、具体的には思考力・判断力・表現力が最も発揮される言語活動や単位時間を想定し「判断基準」を設定して評価した上で、補充指導や深化指導を行うことが大切であるとしている。

社会・地歴・公民科においては、「問題解決的な学習の中で、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育成する必要がある、単元あるいは一単位時間の最初に設定した問題に対する結論を導く過程において、読み取り、解釈、説明、論述等の言語活動を充実させることが重要である」としている（「平成26年度研究協力員研修会社会・地歴・公民科打合せ資料」より）。

そこで、本検証授業では、前述の研究の方向性に基づき、高等学校公民科において授業を行い、その成果と課題を検証することとした。

II 研究の実際

1 教材観、生徒観、指導観

(1) 教材観

本時までには、生徒は、国際社会の成立の過程や、国際社会の安全保障の在り方、国際連合の仕組みと課題、冷戦構造など幅広く国際関係や国際政治に関する学習を行っている。国際社会では、多くの対立や紛争が発生するが、国連をはじめとする国際機関を中心として人類の平和的共存のための調整や協調のための努力が必要である。しかし、世界各地では地域紛争や民族紛争が絶えず発生しており、最近では特にウクライナ情勢やパレスティナ情勢が混迷を深めている。そこで本単元では、最新の国際情勢をとらえて、第1章第5節の「現代の国際政治」の既習事項を生かし、教科書第3章の「現代社会の諸課題」の中から「パレスティナ問題とは何か」を選択して学習する。また、教材として、最新の新聞記事を活用し、資料を活用して自ら社会情勢を分析し、思考・判断させることをねらう。

(2) 生徒観

3年2組は、普通科の文系のクラスであり、大学入試に対応した高い学力の養成を目標としている。クラスの雰囲気は穏やかであり、授業態度もよく、授業に対する姿勢も意欲的である。定期考査の成績も全体として良好である。しかし、知識・理解に関する学力は高いものの、教科書の内容について自分で思考・判断し、意見を表現する力は十分とはいえない。したがって、今後、思考力・判断力・表現力を高めるような指導の工夫を図る必要があると考える。

(3) 指導観

本単元においては、国際政治に関する基礎的・基本的な知識の理解だけではなく、国際社会の構成員として、国際政治についてのより深い見方や考え方を身に付けさせることをねらい、具体的な個別事例を提示し課題を追究させることで、国際政治に対する意識を高めたい。本時においては、パレスティナの最新の情勢を新聞記事から読み取らせ、国際社会がパレスティナ問題の解決のために、どのように取り組むべきかを積極的に追究させ、国際的な社会的事象に対し、積極的に思考・判断する力を身に付けさせる。その際に、前時までの学習内容との関連を意識させ、国際政治についての既習事項に基づき思考・判断・表現させると同時に、論述による言語活動の状況を「判断基準」に基づき評価し、補充・深化指導を行う。

2 本単元の評価規準，指導・評価計画

(1) 単元名 パレスティナ問題とは何か

(2) 単元の構成

第1章 現代の政治

第5節 現代の国際政治

- ① 国際関係と国際法
- ② 国際社会の組織化 地域紛争と難民問題
- ③ 国際政治の動向
- ④ 国際政治の課題
- ⑤ 地球市民社会の形成と課題
- ⑥ 地球環境問題
- ⑦ 地球社会における日本の役割

第3章 現代社会の諸課題

第1節 日本社会の諸課題

第2節 国際社会の諸課題

② パレスティナ問題とは何か (本時)

本時は、第1章第5節「国際政治の課題」における④「国際政治の課題」の「地域紛争と難民問題」で学ぶ地域紛争の一つであるパレスティナ問題をより深く追究するために、第3章第2節の中から「②パレスティナ問題とは何か」を選択し、問題解決的な学習を行う。第3章はいくつかの項を選択して学習を行う単元の構成となっている。

(3) 単元の評価規準 「パレスティナ問題」

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代の国際政治に対する関心を高め、国際政治の特質や国際紛争の諸要因を意欲的に追究し、国際社会や日本の役割を積極的に考えようとしている。	国内政治とは異なる国際政治の特質や、国家間の対立や民族紛争など国際紛争の諸要因について多面的・多角的に思考し、国際社会や日本の役割について判断した結果を適切に表現している。	現代の国際政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、国際紛争の諸要因について、必要な情報を主体的に活用している。	民族問題、領土問題の解決には、平和的な解決に向けて広い視野に立って国際社会が継続的に努力する態度が必要であることを理解し、その知識を身に付けている。

(4) 指導計画 (全16時間)

時	主な学習活動	指導上の留意点
1 時 か ら 16 時	第5節 現代の国際政治 ① 国際関係と国際法〔第1時〕 ウェストファリア条約の締結による主権国家設立、国際法の確立の経緯を理解し、国際法の役割と限界について理解する。 ② 国際社会の組織化〔第2～3時〕 勢力均衡と集団安全保障の考え方の違いや、国際連盟や国際連合の設立によって、国際社会が国際平和を目指して努力してきたことを理解する。 国際連合においてPKOを中心に国際平和維持のための活動が展開されていることや、その機能と限界について理解する。 ③ 国際政治の動向〔第4～6時〕 冷戦時の国際情勢を理解し、ベルリン危機、キューバ危機などの事例を通してその本質を理解する。1950～60年代の冷戦の雪解けの状況や、第三世界の動向、軍縮への動きについて理解する。新冷戦期から冷戦の終焉までの国際社会の動きや、SALT I・IIやSTART I・IIなどの核軍縮の動きを理解する。 ④ 国際政治の課題〔第7～13時〕 核軍縮の動きに焦点を当て、国際司法裁判所の勧告的意見や核拡散防止条約等の国際社会の具体的な取組を通して理解する。 地域紛争と難民問題については、その原因と特徴について理解させる。様々な民族紛争を紹介する中で、特に典型的な事例を取り上げ、その内容と解決に向けた方策について生徒に考える。 【本時】「パレスティナ問題とは何か」〔第13時〕 ⑤ 地球市民社会の形成と課題〔第14時〕 冷戦後の国際社会の現状と課題について、国際テロの頻発など新たな課題が発生していることを理解する。 ⑥ 地球環境問題〔第15時〕 地球環境保護が、国際平和と同様に地球上の大きな課題であることを具体的に理解する。特に、地球環境保護のための国際的な取組について具体的に理解する。 ⑦ 地球社会における日本の役割〔第16時〕 戦後の日本外交や、わが国の安全保障をめぐる状況について俯瞰させ、わが国が国際社会においてどのように動いていくべきかについて考える。	○ 国際法と国内法の性質の違いについて理解させる。 ○ 国際連盟が世界大戦を防げなかった理由や、それを踏まえて国際連合がどのように改善されたのかを理解させる。 ○ PKOの第1世代から第3世代への変化の内容について事例を通して理解させる。 ○ 冷戦時の東西対立の構造について政治、経済、軍事等多角的に理解させる。 軍縮の動きについては、冷戦から新冷戦までの国際社会の動きと併せて理解させる。 ○ 核兵器の脅威については唯一の被爆国であるわが国が国際社会で訴え続けることの大切さを理解させる。 ○ 通常の戦争とは異なる性格をもつことを注視させ、その解決が難しい背景を具体的な事例を取り上げ追究させる。 ○ 国際問題の解決に貧困の克服が大きな鍵を握ることに気付かせる。 ○ 地球環境問題の個別的内容だけではなく、解決に向けた国連の取組等を中心に理解させる。 ○ 国際社会についての学びのまとめとして、わが国が国際的にどのように行動するか自分の意見をまとめさせる。

3 学習内容の関連を踏まえて設定した「判断基準」(前単元と本単元)

前単元

→ 本単元

評価規準(思考・判断・表現)	
○ 国内政治とは異なる国際政治の特質や、国家間の対立や民族紛争など国際紛争の諸要因について多面的・多角的に追究し、考察したことを適切に表現している。	○ 国際社会の諸問題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決の在り方について、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、考察した内容を適切に表現している。
思考・判断に基づく表現内容(評価の対象)	
○ 記述の方法 ワークシート(ノート)	○ 記述の方法 ワークシート(ノート)
判断の要素	
ア 国際社会と国際法 イ 国際連合と平和の維持 ウ 国際社会の情勢	ア 地域紛争の歴史的経緯 イ 国際社会との関係 ウ 解決に向けた方向性
判断基準B	
ア ウェストファリア会議で主権国家が成立し、国際社会が形成されていき、国際法が発達したこと イ 国際連合を中心として国際社会が平和の維持に努めていること ウ 冷戦を経て、軍縮が進む一方で、地域紛争、民族紛争が多発していること	ア それぞれの地域紛争の背景に、歴史的、民族的、地理的な課題が存在すること イ 大国の一方的な外交政策や、戦争の結果問題が複雑化していること ウ 解決のために大国や国際社会が解決に積極的に取り組むこと
〔予想される生徒の表現例〕 ウェストファリア条約以降、主権国家が国民国家として成長していき、国際社会が形成された。国際連盟の失敗を踏まえて、国際連合が世界の安全保障で重要な役割を果たしている。しかし、冷戦以後、地域紛争や民族紛争が多発している。	〔予想される生徒の表現例〕 パレスティナ紛争は、パレスティナ人が居住する地域にユダヤ人国家イスラエルが建国されたことで発生した。しかし、イギリスの二重外交など大国の介入により問題が複雑化し解決を困難にしている。解決のために国連を中心として国際社会が対応するべきだ。
C状況生徒への補充指導	
ノートや、資料集の該当部分を示し、国際社会の特徴と、歴史的な経緯について確認させ、国際社会の課題について見いださせる。	ノートや、資料集の該当部分を示し、パレスティナ紛争の歴史的経緯について年表等で確認させ、その建国の経緯について確認させる。
判断基準A	
国内政治とは異なる国際政治の特徴について理解しており、国際平和の維持がなぜ困難なのかを考察している。	バルフォア宣言やマクマホン宣言等、パレスティナ問題が大国の思惑により問題がこじれていった経緯等、問題の背景について詳しく考察している。問題の解決について、国連のPKO、UNHCR等の具体的な活動や、難民対策などについて具体的な提案がある。
B状況生徒への深化指導	
具体的な事件、事例を踏まえて考えるようにさせ、国際社会の変化とその特徴について具体的に考察させる。	パレスティナ問題がなぜ解決が難しいかについて、大国の対応や、宗教上の対立など具体的な背景から理由を考察させる。また、解決策について既習事項を生かし具体的に述べるよう促す。

4 指導法の工夫

民族紛争、地域紛争の解決が困難な背景として、歴史的、民族的、地理的な課題が交錯していることが挙げられる。パレスティナ紛争はその典型的な事例であり、1単位時間において紛争の背景について効率よく提示し理解させる必要がある。そこで、本時においてはワークシート1を作成し活用することで、ユダヤ民族とパレスティナ人の対立の背景と対立軸を効果的に浮き彫りにすることとした。また、この工夫は単に知識をワークシート上で整理するだけではなく、ユダヤ民族側、パレスティナ人側それぞれに共感できる事実があることを知らせ、ホロコーストや中東戦争などの歴史的にも衝撃的な出来事を通して生徒の心を揺さぶり、紛争解決のための思考に対する関心・意欲を高めることをねらった。**【ワークシートの工夫（視点1）】**

また、この紛争が過去のものではなく、2014年7月からガザ地区を中心として混迷を深めていることを新聞記事から読み取らせることで、地域紛争、民族紛争の問題の根深さを実感させる。そして、現在の地上戦の様子や、それに対する国際社会の動きなどをより具体的に把握させた上で、この問題の解決法について、現在の世界情勢や既習事項を踏まえて思考することを促し、ワークシート2に論述させた。**【既習事項を生かした授業展開（視点2）】**

生徒がワークシート2に論述する際には、指導者は机間指導の場面において、評価規準で設定した「思考・判断・表現」の学習状況をより分析的・具体的に表した尺度である「判断基準」を活用し、A・B・Cそれぞれの状況の生徒に対して適切な指導を行う。また、その論述に対する評価は、「判断基準」を用いて思考力・判断力・表現力を効果的に見取ることとし、それに基づく補充・深化指導を行う。その際には、「判断基準」は既習事項との関連を特に意識して設定し、論述が既習の知識を生かして思考・判断されているかを注視することとした。**【既習事項を生かした評価(視点3)】**

5 指導展開

(1) 日時、教材等

- 実施日 平成26年9月18日(木) 4時間目
- 対象 3年2組(計40人)
- 教科書 『政治・経済』(東京書籍)
- 補助教材 資料集『最新図説 政経』(浜島書店)

(2) 本時の目標

国際政治についての既習事項を生かして、パレスティナ紛争の歴史的背景と現状について理解し、その解決策を追究することで、地域紛争、民族紛争の特徴を把握する。その上で、国際社会が平和で安定するために、国際社会やわが国がどのように動いていくべきかについて考察する。

(3) 本時の評価規準

国際政治についての既習事項を生かして、パレスティナ紛争の歴史的背景と現状について理解した上で、その解決策について深く考察し、その結果を適切に表現している。

【思考・判断・表現】

(4) 実際

過程	学習活動	時間	指導上の留意点 ※【評価の観点】	資料等
導入	前時までの、地域紛争、民族紛争の学習を振り返り、その解決が困難だった背景を再認識する。	5	本時の目標を記述させる。 イスラエルの地図上の場所を確認する。教科書の「戦車に投石する少年の写真」を確認させる。	教科書P.202 ワークシート
展開 I	ワークシートの、① ユダヤ民族の苦難の歴史において、ユダヤ教の特徴や、民族としての歴史的状況、ナチスのホロコーストの歴史について資料を通して把握し、シオニズム運動との関連を考える。 ワークシートの、② 大国に翻弄されるユダヤ民族をまとめ、ユダヤ民族が翻弄された原因を大国による外交面から考える。 ワークシートの、③ 怒るパレスティナ人において、第一次から第四次までの中東紛争の経緯を把握し、国際的な紛争につながった事実を理解する。 ワークシートの、④ 歴史的な解決は実現するのか？においてオスロ合意がどのような役割を担っているかを考える。	30	倫理、世界史等の既習事項であるユダヤ人の苦難の歴史の概要からその特徴をつかませるようにする。ホロコーストが、シオニズム運動が盛んになる大きな契機となったことを理解させる。 大国が、民族紛争の遠因をつくっていく過程を理解させるとともに、ユダヤ民族が自国の領土を要求する強い意志をもち続けてきたことを確認させる。 詳細な歴史的 content に踏み込みすぎず、軍事的に優位なイスラエル側が着実に領土を拡大していく経過を理解させる。また、アラブ側が第四次中東戦争において石油戦略に転じ、国際的な紛争の位置付けが変化したことに気付かせる。 和平の当事者の死去により、一気に紛争が混迷の度を深めて行く状況から、対立の根深さを認識させる。	教科書P.202 ワークシート 大判写真 ワークシート 資料集P.162 ワークシート 資料集P.162～163 ワークシート 資料集P.162
展開 II	新聞記事「ガザ死者150人超」等の読み合わせを行い、2014年7～8月においても、ガザ地区において紛争が激化し多くの犠牲が出ていることを理解し、その原因を考える。 国際政治の既習事項、新聞記事を活用して、様々な要素が混在する地域紛争であるパレスティナ紛争について、その解決策を考察する。  写真1 新聞活用の場面	10	新聞記事を読んだ上で、既習事項を想起させつつ、生々しい紛争の現状に触れ、なぜいたましい紛争が収まらないのか考察させる。 ワークシートNo. 2に紛争の解決策を記述することを指示し、必要に応じて机間指導を行い、論述の支援を行う。  写真2 机間指導の際、「判断基準」に基づき「補充指導」や「深化指導」を行っている様子	新聞記事プリント ワークシートNo. 2
終末	本時まとめ ワークシートの整理	5	国際政治の学びを生かして、今後も世界の平和の維持に関心をもつことの大切さを伝える。	ワークシート

6 検証授業の実際と考察

(1) 導入～展開Ⅰ

まず、導入においては、教科書の「イスラエルの戦車に投石しながら逃げる少年たち」の写真を確認させ、戦車の砲身がまっすぐに少年たちに向けられていることを指摘し、少年たちの無謀ともいえるこの行為から本時に学ぶパレスティナ紛争の深刻さを意識付けさせた。

その上で、ワークシート1の **① ユダヤ民族の苦難の歴史**において、ユダヤ民族が前15世紀にパレスティナに定住を開始しながらも1世紀にローマ帝国の厳しい民族弾圧を受けてこの地を追われ世界中に離散した事実と、彼らが宗教的な理由からキリスト教徒から厳しい差別を受けつつも、ユダヤ教を精神的な支柱として耐え続けた事実、金融業をはじめとして著名な学者や芸術家などを輩出した事実をワークシートに整理させた。生徒は、2年次に公民科「倫理」においてユダヤ教とキリスト教を既習しており、「倫理」における源流思想の学びを、歴史の展開に沿って再び理解を深めることとなった。さらに、苦難の歴史の末に、第二次世界大戦においてナチスのホロコーストで600万人もの無実のユダヤ人が殺害された事実をアウシュビッツ強制収容所の大判写真を通して理解させ、「自分たちの国土が欲しい」、「聖地エルサレムに帰ろう」というシオニズム運動が展開していくことが、ユダヤ人の悲願となっていくことの意味を彼らの心情を推し量りながら理解させていった。

ワークシート1の **② 大国に翻弄されるユダヤ民族**においては、イギリスのバルフォア宣言、マクマホン書簡という大国の身勝手な外交が、ユダヤ人とアラブ人との間の溝を生み出し、結果として国連の「パレスティナ分割決議」を経てイスラエル共和国の建国に至ったプロセスをワークシートに整理させた。この部分では、イギリスが、ユダヤ系財閥の資産をめあてに、ユダヤ民族の「国土が欲しい」という気持ちを利用した外交を展開した経緯を理解させ、大国の民族問題への介入により民族紛争が一層複雑化するその特徴的な性質を理解させた。この部分の学習を通して、パレスティナ問題の解決のために国際社会がどのように対応するべきか思考する視点を得させる。なお、ここまでの展開Ⅰの前半であるワークシート1の **①**、**②** までに、生徒は、苦難の歴史の末にイスラエルを建国したユダヤ人に対して肯定的な雰囲気となった(図1中①)。

次に、ワークシート1の **③ 怒るパレスティナ人**において、イスラエルが圧倒的な軍事力によって数次の中東戦争を通してパレスティナ人を弾圧し、イスラエルの国土を拡大していく過程を確認させた。この部分の学習では、国土を保有したユダヤ人が一転してパレスティナ人を敵とみなし対立が深まっていくことが理解できる。この中東戦争の経緯を整理する過程で、多くのパレスティナ難民が発生し、パレスティナ人のイスラエルに対する抵抗運動「インティファダ」が激化していったことを理解させた。

また、**④ 歴史的な解決が実現するのか?**で、オスロ合意が、和平当事者の死去によりもろくも崩壊していったことを理解させた。ワークシート1の **①**、**②** までで、ユダヤ人がイスラエルを建国した過程に肯定的な意見が大勢を占めた雰囲気が、一転してパレスティナ人が不利な状況に置かれるようになった歴史的な状況の転換に生徒は驚きの表情を浮かべていた(図1中②)。

「いったいどちらに正義があるのか?」という授業者の問いに、生徒は苦悶の表情を浮かべ、解決に向けた道筋が単純なものではないことを感じ取り、懸命に思考する様子が見られた。**ワークシートの工夫 (視点1)**

「政治・経済」ワークシート 3年 組 番 氏 名

○教科書 P202～203 資料集 P162～163

★本時の目標

パレスティナ紛争の背景と現状を理解し解決策を考えよう。

① ユダヤ民族の苦難の歴史

○ 前15世紀に遊牧民のユダヤ民族が①パレスティナに定住開始。前10世紀ごろ「②イスラエル王国」がエルサレムを中心に繁栄。しかし、1世紀には、③ローマ帝国から厳しい民族弾圧を受け、この地を追われ各地に離散した。

↓

居住地での激しい差別「ユダヤ教徒は④イエス」を十字架に追いやった」
by ⑤キリスト教徒

※彼らを精神的に支えたのが⑥ユダヤ教「最後の審判には唯一神⑦ヤーウェ」がユダヤ人だけに⑧メシアを遣わし救済してくださる。」⑨選民思想

世界各地で存在感を増すユダヤ民族

○激しい差別に負けないためには自分自身の実力が頼り…著名な学者、俳優、資産家を輩出

※キリスト教が蔑んだ⑩金融業で成功する者が多く銀行家として活躍!!

(土地を持ってないから農民になれない。公的職業にも就けない。)

WWIIの民族最大の迫害

○ドイツの⑪ナチスによる大量虐殺⑫ホロコースト。⑬600万人以上が殺害!

「自分たちの国土が欲しい!」
「聖地エルサレムの⑭シオン」の丘に帰ろう! (⑮シオニズム運動)

② 大国に翻弄されるユダヤ民族

○ WWI イギリスの⑯二枚舌外交

1917年「⑰バイルフォア宣言」(一外務大臣)
ユダヤ人へ「パレスティナにユダヤ人の国の建国を約束します」(ロスコイルド家と戦費を貸して)

1915年「⑱マクマホン書簡」(一海軍非高官)
アラブ人へ「パレスティナはアラブ人の所有だ。」

対立が決定的に!

○ WWI後 イギリス「困った…⑲国際連合」に任せます

←アメリカはユダヤ民族支持「(在米)ユダヤ人は票になるがアラブ人は票にならない。」by トルーマン

1947年「⑳パレスティナ分割決議」→(㉑イスラエル共和国)建国!

賛成33ヵ国(72%)、米ソ仏etc… 反対13ヵ国(28%)、英独10ヵ国(英など)

③ 怒るパレスティナ人(アラブ人) = イスラム教徒

○1948年(㉒第1次中東戦争)アラブ側からの攻撃

⇒イスラエル側の優勢 国連の停戦勧告で停戦へ

○1956年「㉓第二次中東戦争」(㉔スエズ戦争)

エジプト(アラブ人)のナセル首相が「スエズ運河(㉕国有化)宣言」

⇒英・仏・(㉖イスラエル)が反対し、エジプトを軍事的に圧倒。
But 米ソ、世論からの批判があり、英・仏・イスラエル撤退。

○1967年「㉗第三次中東戦争」

イスラエルが延べ500機の戦闘機でエジプトを奇襲!

(㉘ゴラン)高原、(㉙シナイ)半島、(㉚ミッドラン)川西岸を占領 ⇒ パレスティナ地域の100%以上を占領!

○1973年「㉛第四次中東戦争」

アラブ側「イスラエルが撤退しないと(㉜石油)生産を5%以上削減するぞ!」= (㉜石油)戦略

⇒欧米諸国の大混乱! (㉝第一次オイルショック)

⇒1974 米ソの圧力 国連の(㉞停戦決議)をイスラエルに飲ませる。

※大量の(㉟パレスティナ難民)が発生しつづける! (㊱492万人(2013年まで))

※イスラエル占領地でのパレスティナ人の抵抗運動「㊲インティファダ」が激化!

④ 歴史的な解決は実現するか?

○1993年「㊳オスロ合意」

イスラエル(㊴ラビン)首相と PLO(パレスティナ解放機構)(㊵アラファト)議長

ヨルダン川西岸とガザ地区をパレスティナの(㊶自治区)にすることに合意!!

But 1995年 ラビン首相暗殺

2004年 アラファト議長 不審死?

…和平の枠組みが壊れていく…

★そして2014年7～8月のガザ地区の様子は??

現在、ガザを実効支配しているのは、イスラム原理主義組織(㊷ハマス)

図1 検証授業で使用したワークシート1

(2) 展開II

次に、新聞記事「ガザ死者150人超」等の「ガザ地区において対立が緊迫する情勢を伝える新聞記事」(図2)の読み合わせを行い、ワークシート1で整理した事実を想起させつつ、現在でも対立が根深く続いており、特にパレスティナ側に多数の死者が出ている状況を理解させた。(写真1)その上でワークシート2に現在の世界情勢や既習事項を踏まえて、生徒にパレスティナ紛争の解決法について自分の意見を論述するように指示した。ワークシート2では、①「パレスティナ紛争の原因は何か?」、②「紛争が深刻化した理由は何か?」、③「①～②を踏まえての、自分の解決策」の順に論述することを求めた。これは、生徒がワークシートで整理した既習事項を生かして論述しやすくすると同時に、「判断基準」で求める「判断の要素」を含んだ論述を行いやすくするための工夫である。単に、パレスティナ情勢を解決するための自分の意見を羅列するだけではなく、論理的に歴史的な背景に沿って論述しやすくするための工夫である。

生徒は、授業の終末で、公民科「倫理」の源流思想の学習公民科「政治・経済」の既習事項である「現代の国際政治」の内容を踏まえて、一生懸命に論述を行う姿が見られた。



図2 「ガザ地区において対立が緊迫する情勢を伝える新聞記事」
南日本新聞2014年7月21日(右上)、
2014年8月19日(左下)

(3) 「判断基準」に基づく指導と評価

本授業では、2つの点で既習単元の振り返りと関連を図っている。1つ目は、展開Ⅰにおいて「ユダヤ教」、「キリスト教」という2年次で既習の「倫理」の知識を活用する点である。2つ目は、直前計16時間の「現代の国際政治」の知識の活用である。

本単元において、パレスティナ紛争の解決に向けての方策について思考し、論述するためには既習事項の知識を総動員しなければ問題の本質やそれに基づく解決策を見いだすことはできない。生徒は、本授業の展開Ⅱにおいて、紛争の解決策について論述する際、教科書や授業ノート、資料集の既習のページを振り返りつつ、思考する姿が見られた。展開Ⅱにおいて、生徒はワークシートに紛争の解決策を記述する際に机間指導を行ったが、その場面では、既習事項との学習内容の関連を踏まえた「判断基準」をもとに「深化指導」、「補充指導」を行った（写真2）。

例えば、B状況に相当する内容を記述しつつある生徒については、既習事項を生かして国際連合のもつ紛争解決機能であるPKOやPKF、平和のための結集決議などの既習内容を想起するように指示した。また、C状況の生徒には、パレスティナ紛争の歴史的経緯について把握させるためにノートや、資料集の該当部分を示し紛争の経過について説明し指導を行った。これにより、B状況の生徒はA状況に必要な「判断基準」を、Cの生徒はB状況に必要な「判断基準」を意識した論述につなげることができた。

(4) 生徒の論述に対する評価

次に、十分な論述の時間を確保するために、ワークシート2を宅習課題として指示し、後日提出させた。生徒全員が提出し、A4サイズのワークシートにぎっしりと論述した生徒がほとんどであった。その論述内容について、「判断基準」により評価の上、生徒に「深化指導」、「補充指導」を行うこととした。

図3のワークシート2は、B状況と判断した生徒である。ワークシート2の論述の方法として事前に指示した①「パレスティナ紛争の原因は何か?」、②「紛争が深刻化した理由は何か?」、

③「①②を踏まえての、自分の解決策」の論述に沿って解答がなされており、B評価に必要な判断の要素が含まれていると判断した。また、この生徒には「深化指導」として、①については、シオニズム運動の宗教的な背景を加え、②については、二重外交の詳細やパレスティナ分割決議などより具体的な事実に触れるよう促すこととした。特に③においては、国連が具体的にどのような活動を展開すべきか思考させ、論述できるように指導した。

「政治・経済」ワークシート No. 2

3年組番氏名

5 どうすればパレスティナ紛争が解決に向かうのだろう？

歴史的背景を踏まえて、自分の意見をまとめよう。

★ 意見を書く順序

①パレスティナ紛争の原因は何か？

⇒ ②紛争が深刻化した理由は何か？

⇒ ③ ①～②を踏まえての、自分の解決案

1 前19世紀にユダヤ民族がパレスティナに定住していたが、1世紀にはローマ帝国により追われて、世界各地に離散した。このころからユダヤ人の憎悪が増えた。特にホロコースト後にリオン・トラウゼン事件が起こったこと、この原因と言われている。また、イギリスの二枚舌外交により、ユダヤ人、アラブ人はともに被害を受け、対立が深まったことが紛争の深刻化につながった。

2 自分も思う解決策は、話し合いによるのではなく、先に解決すべき問題はないかと、主要国々がイギリスやアメリカなどに働きかけていくことだ。この問題を更にくわしく見て、国連で話し合うべきだと思う。

3 国連で停戦を呼びかけ、いっしょにユダヤ人は、改めて自分達を決めたことを、自分達が同じことをしているという気持ちを持つべきである。お互いに譲歩すること、国連を通じて仲介に入って、互いの納得できるような提案をして、やり直さなければならない。

こころは超えよう！

図3 検証授業で使ったワークシート2

図4は、C状況の論述であると判断し、「補充指導」が必要と判断した生徒のワークシートである。このワークシートの論述では、①「パレスティナ紛争の原因は何か？」について「シオニズムによっておこった」と原因の一つを記述したり、②「紛争が深刻化した理由は何か？」について「バルフォア宣言」を取り上げたりしている。しかし、③「①②を踏まえての、自分の解決策」については、「ユダヤ人があきらめればよい」など抽象的な記述に終わっており、国際社会の関与やパレスティナ難民の救済などの現状の解決に関する具体的な提言に至っておらずC状況にあると判断した。この生徒の場合、「補充指導」で、ノートや資料集で国際社会の紛争解決のための活動等について振り返らせ、特に③について詳述させるように指導し、①②についてももう少し具体的な事実の記述を増やすように指導することによりB状況に近づくと考えた。

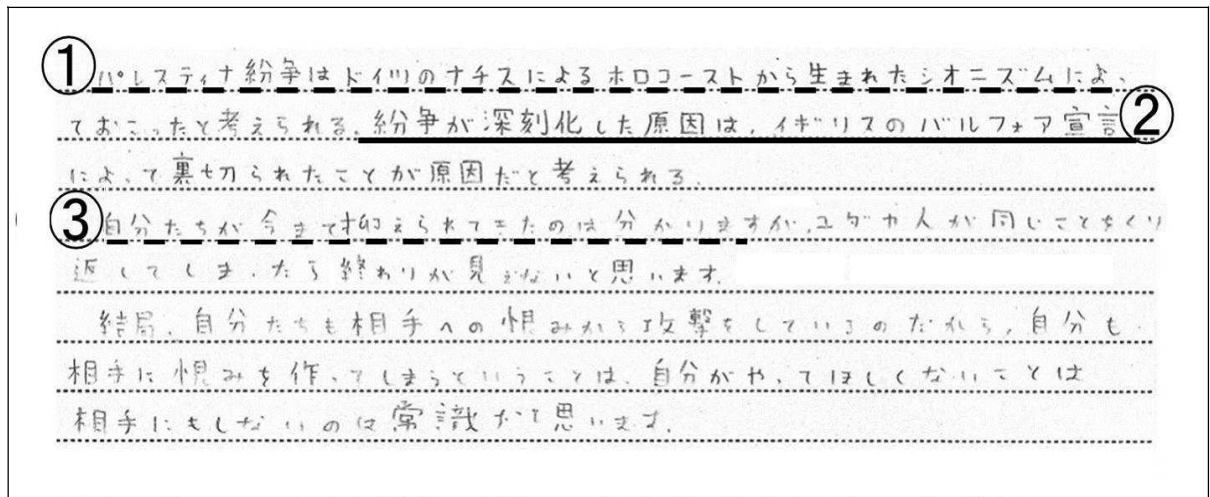


図4 ワークシート2（C状況と判断した生徒の論述）

図5は、A状況にあると考えられる生徒のワークシート2の論述の中の、③「①②を踏まえての自分の解決策」の部分である。単に国連の事態解決のための関与だけではなく、PKO（国連平和維持活動）や、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）によるパレスティナ難民への保護活動等について具体的に触れており、①「パレスティナ紛争の原因は何か？」と、②「紛争が深刻化した理由は何か？」の記述に対する評価と併せてA状況と判断した。①、②については、生徒の多くがワークシート1の記述を活用することで、おおむねB状況の判断基準の内容を達成していた。

論述が難しかったのは、③の「①②を踏まえての、自分の解決策」であり、国連の関与のみ抽象的に求めている論述が多く見られた。A状況の論述では、既習事項を生かして国連の具体的な活動内容に踏み込んだり、パレスティナ分割決議自体の内容について踏み込んで論じている意見もあり、生徒が柔軟な発想でパレスティナ紛争の解決策を懸命に思考したことがワークシート2に表現されていた。

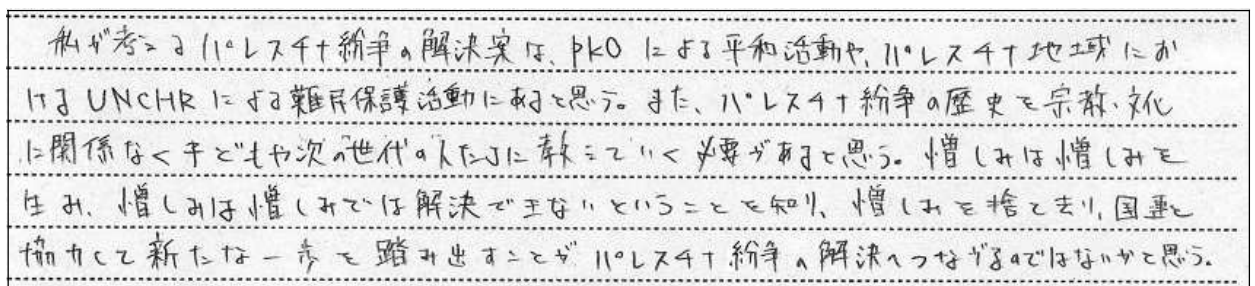


図5 ワークシート2（A状況と判断した生徒の論述の③ 「①②を踏まえての自分の解決策」の部分）

Ⅲ 成果と課題

1 研究の成果

- ・ 既習単元と、課題解決的な学習の単元を接続した単元設定の工夫を行ったことで、既習事項の知識・理解を生かした思考・判断・表現をさせることができた。
- ・ ワークシートの工夫により、パレスティナ紛争の当事者のそれぞれの立場を整理して捉えることができ、効果的に課題解決のための思考・判断・表現が行えた。
- ・ 新聞記事を活用したことにより、教科書の内容を、最新の時事問題として意識し、高い興味・関心をもって課題の解決に取り組むことができた。
- ・ 生徒の論述を、指導・評価する方法として、評価規準で設定した「思考・判断・表現」の学習状況をより分析的・具体的に表した尺度である「判断基準」を活用することで、効果的な補充・深化指導を行うことができた。

2 研究の課題

- ・ パレスティナ紛争のような複雑な事象についての判断を求める学習課題の場合は、資料を精選し、表現させる時間を十分に与える必要がある。
- ・ 既習事項の定着状況の差が大きく、深化指導、補充指導の工夫を一層行う必要がある。